２．地域の課題

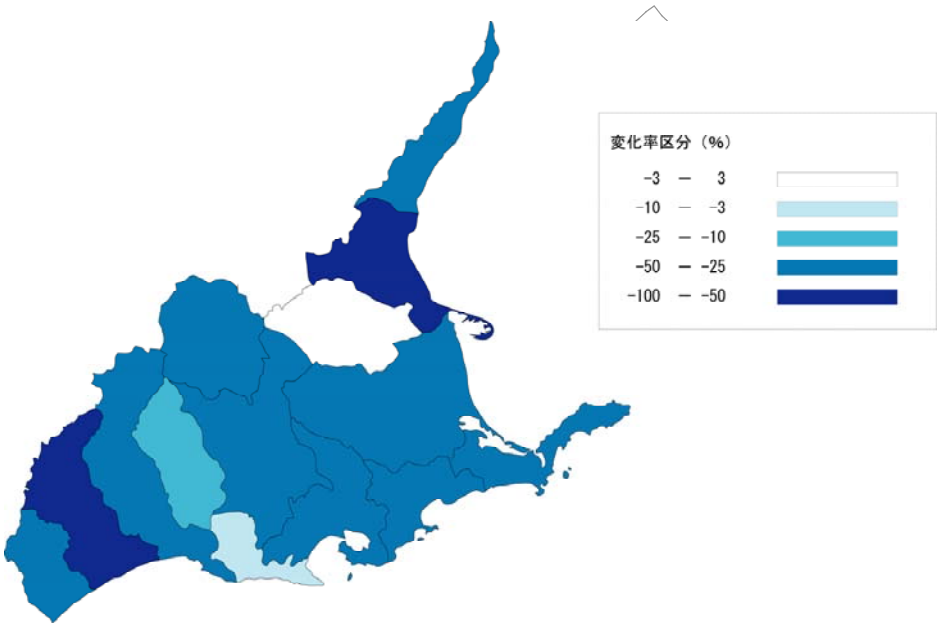
(1)人口減がもたらす課題：地域構造の変化と経済活力の停滞

全国や道内他地域に比べて急速に進むと予測されている高齢化や人口減少[注11]からすれば、各地域がこれまで通りに機能を維持していくことは極めて難しい。例えば、釧路への高度医療機能の集約が現実問題として進んでおり、今後の人口減少下においては、高度医療に限らず、多くの分野でこのような傾向が強まる可能性が高い。

このため、釧路・根室地域の持続的な発展に向けて、釧路市・釧路町、根室市、中標津町といった都市圏とその周辺の農漁村地域、あるいは札幌などとの役割を明確化し、役割分担や広域連携等を効果的、効率的に行い、様々な機能を補完しうる地域構造が求められる。

また、経済面では、地域「需要」の減少に加え、地域産業の「担い手」不足も懸念される。このため、海外を含めた販路開拓や地域内循環の充実といった取り組みのほか、「担い手」不足に対して新たな「担い手」などの他地域からの取り込みや各産業・流通などの効率化が求められる。

図表10　市町村別人口推移（2000－2030年）



資料）国勢調査結果を元にしたコーホート要因法による推計（釧路支庁及び根室支庁分のみ抜粋）

注11）図表10参照

(2)地域ポテンシャルの活用不十分

生ダコやシャケ、ホタテ、スケトウダラなど一部の産品については物流アクセスの改善により韓国への輸出が活発化しているといった事例[注5]もあるが、スピードや頻度、鮮度など市場ニーズに応え切れていない。

このほかの「食」についても、エゾシカ肉は個体数増加が衝突事故の増加や樹木の食害など[注12]を招いている反面で新たな食材として期待されている。釧路・根室地域以外の国内では網走市や函館市、和歌山県太地町、宮城県牡鹿町などに限定されている調査捕鯨による鯨肉など、他の地域にない特色もあるが、まだ十分に活かされている状況にない。

釧路・根室地域を他地域と比較した場合、農業や水産業などの質の高い素材生産に強みを有し、海外などの販路拡大も期待されるが、加工などの高付加価値化や流通機能の高質化にはまだ余地がある。

また、知床世界自然遺産に代表されるように自然環境にも恵まれているが[注13]、釧路・根室地域や関係者自体が釧路・根室地域の「良さ」に十分に気がついていないこともあり、地域ブランドや観光などの側面において十分に活用されている状況ではない。

このため、釧路・根室地域の持つ強み・弱みを再度見直すことなどを通して、釧路・根室地域ポテンシャルをさらに活用することにより、産業などの活性化が見込まれる。

図表11　釧路・根室地域の世界遺産、自然公園等

区　　分		釧根地域	その他道内	道外
世界自然遺産地域		1カ所（知床）	なし	2カ所
自然公園	国立公園	3カ所（阿寒、知床、釧路湿原）	3カ所	22カ所
	国定公園	なし	5カ所	50カ所
国指定鳥獣保護区		6カ所（知床、釧路湿原、風蓮湖、厚岸・別寒辺牛・霧多布、ユルリ・モユルリ、大黒島）	7カ所	46カ所
ラムサール条約登録湿地		6カ所（釧路湿原、厚岸湖・別寒辺牛湿原、霧多布湿原、阿寒湖、風蓮湖・春国岱、野付半島・野付湾）	6カ所	21カ所
水鳥・湿地センター（環境省）		1カ所（厚岸）	2カ所	5カ所
野生生物保護センター（環境省）		1カ所（釧路市）	1カ所	6カ所

注12）「北海道東部地域におけるエゾシカ個体数指数の推移」（北海道）によると、エゾシカによる列車支障件数が666件、農林業被害額1,768百万円、把握されている自動車関連の事故等が19件（ともに平成16年度）となっており、とりわけ列車支障件数は平成５年の３倍弱にまで達している。

注13）図表11参照（環境省資料等により作成）

(3)グランドデザインの欠如

釧路・根室地域の特色あるポテンシャルを十分に活かしていくためには、釧路・根室地域が一丸となって目指していく「目標」を設定し、その「手段」を具体化していくことが求められる。

このためには、釧路・根室地域が持続的に発展し、これからも住みたくなる、住み続けたくなる「将来像」が不可欠となるため、釧路・根室地域のグランドデザインをしっかりと描いておく必要がある。

具体的には、釧路・根室地域の強みであり、全国的にも重要な役割を担っている農業や水産業などの安全・安心で質の高い食産業と、世界に誇れる豊かな自然環境や地域産業など釧路・根室地域の特色を活かした観光産業などの振興を図っていく必要がある。

同時に、その他の各種産業についても釧路・根室地域ポテンシャルに頼るだけでなく、産業間の連携を図り、地域資源を高付加価値化することなどにより新たなビジネスチャンスを発掘するなど、裾野を広げていくことも極めて重要な課題となる。

また、このような取り組みを実現していくためには、担い手となる地域住民にとって重要な「生活・環境基盤」が充実していることも重要であり、併せて、今ある恵まれた自然環境を将来的にも維持していかなければならない。

そして、これらの視点を踏まえ、釧路・根室地域が目指すグランドデザインを描き、しっかりと示していく必要がある。

Ⅱ　地域の目指す将来像

基本的考え方

少子・高齢化、人口減少下においても釧路・根室地域の活力を維持していくためには、恵まれた自然環境や安全・安心で質の高い「食」の生産など、特色あるポテンシャルを活かした釧路・根室地域のグランドデザインを描き、実現させていく必要がある。

このため、釧路・根室地域のポテンシャルを最大限に発揮すべく、釧路・根室地域の強みである自然環境に裏付けられた第１次産業を中心にした「食」と「観光」の高度化、高質化が不可欠となる。ただし、単に規模拡大など量だけを目指すのではなく、釧路・根室地域のブランド力を向上させるなど付加価値の高い産業構造の構築を目指す。

また、一方では恵まれた自然環境をただ単に産業的側面から利用するだけでなく、将来にわたって釧路・根室地域の財産・宝として維持・保全していく必要がある。このため、例えば産業と自然環境との共生などにも最大限配慮しながら、住民にとっても住み続けたくなるような、持続可能な地域、産業の構築を図る。

加えて、「住まい手」特に高齢者の視点などからみた生活基盤の確保、充実も不可欠な要素であり、特に人口減少下においては、「集中と選択」などこれまでとは違った視点からの機能整備が求められる。このため、都市圏と周辺地域の機能分担など、地域構造の再構築を行っていく。併せて、海外、とりわけ貿易や観光客の入り込みが増加基調にある東アジア地域との更なる交流促進を進める。

これらから、釧路・根室地域の目指す将来像として、以下の５つの方針のもと、地域特性や効率性などを踏まえて、自然環境と両立した持続可能な地域・産業を構築し、「環境と共生し、住みたくなるまちづくり」を実現する。
なお、「５．地域を支える基盤づくり」は地域の目指す将来像である他の４つの方針を実現するために共通する基盤となるものである。

【釧路・根室地域の目指す将来像：５つの方針】

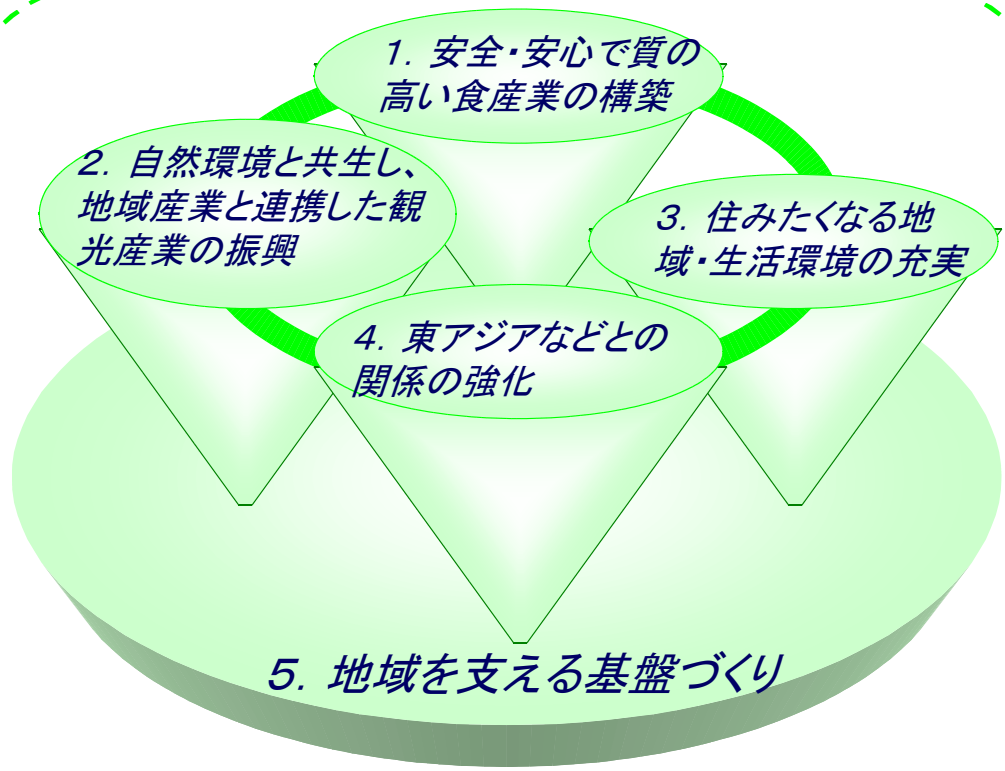
１．安全・安心で質の高い食産業の構築

２．自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

３．住みたくなる地域・生活環境の充実

４．東アジアなどとの関係の強化

５．地域を支える基盤づくり



地域の目指す将来像5つの方針のイメージ